

第 417 回宜野湾市議会定例会 所信表明

議長のお許しを得て、議案の上程説明に先立ち、市長就任のあいさつと所信を申し述べ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜わりたいと存じます。

私は、前任市長の辞職に伴う9月30日の市長選挙を経て、第18代宜野湾市長に就任いたしました松川正則でございます。

市長選挙では、佐喜眞前宜野湾市長の市政を継承し、普天間飛行場の固定化阻止をはじめ、まちづくり、子育て支援、誰もが活躍できる社会の実現、教育環境の充実、健康・福祉施策の推進、経済振興・雇用創出、スポーツコンベンションの推進、防災体制の強化、行財政改革及び快適な生活環境の推進の全般におきまして「宜野湾がいちばん！」だと実感できるまちづくりの推進を訴えてまいりました。

その結果としまして、市民有権者のご支持、ご理解のもと、市長という重責を担うこととなり、大きな喜びと同時に、身の引き締まる思いでございます。

今後の4年間につきましては、前市政で種をまいた事業、芽を出している事業等をしっかりと継承し、活力と活気に満ちた豊かで住みよい宜野湾市の実現に向け、精一杯取り組んでまいりたいと思っております。

それでは、私が市長選挙で公約として市民の皆さまにお示した「宜野湾がいちばん！」と実感できるよう取り組む重点施策について、ご説明申し上げます。

はじめに、「基地のない平和なまちづくり」でございます。

市民の生活環境に大きな負担を強いている普天間飛行場の固定化阻止につきましては、全面返還合意から 22 年目が経過した今なお、返還はおろか、市民が実感できる危険性の除去や、基地負担軽減も図られていないのが現状であります。

私と致しましても、最重要施策に位置付け、普天間飛行場の固定化を許さず、その危険性を除去するため、基地の運用停止及び一日も早い閉鎖、返還並びに基地負担軽減の実現に向けた取り組みを強力に推進し、その実現のため政府、沖縄県、宜野湾市による普天間飛行場負担軽減推進会議の早期開催を強く働きかけるとともに、訪米要請行動等により、市民の目に見える形での負担軽減に取り組んでまいります。

また、普天間飛行場がまちのど真ん中に存するための市民の時間的、経済的損失や米軍機の日常的な飛行による騒音問題、電波障害に対する基地被害の補償措置や、飛行ルートの遵守などを政府に強く求め

てまいります。

基地跡地利用につきましては、今年3月に地権者へ引き渡された、キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地に琉球大学医学部、同附属病院を移設し、「沖縄健康医療拠点を核とした都市機能と、水・みどり・文化の調和した住環境がつながるまち」の取り組みを推進してまいります。

インダストリアル・コリドー南側部分の早期返還を実現し、西普天間住宅地区跡地と連携したまちづくりに取り組んでまいります。

普天間飛行場の跡地利用計画を早期に策定し、同跡地へ鉄軌道の導入を推進するなど、沖縄振興をリードするまちづくりに向けて取り組むとともに、基地返還後も地権者等が安心して生活できるよう、合意形成を進めてまいります。

続きまして、「夢あふれるまちづくり」といたしまして、毎日が明るく、未来に夢と希望の持てる住みよいまちづくりを進めてまいります。

上原交差点から佐真下までの市道宜野湾11号及び中原進入路の早期全面供用開始を実現し、国道330号の渋滞の解消を図ります。

西普天間住宅地区跡地に「市民駐車場」を建設し、普天間神宮周辺や県道81号線沿いのヒルズ通り商店街を活性化いたします。

現在着手している普天間万年通りの道路拡幅を早期に完成します。

普天満宮周辺のまちづくりにつきましては、普天間地区において国道330号中央通りの開発に取り組んでまいります。

旧真栄原新町地域につきましては、道路整備をはじめ、(仮)総合保健福祉センターの建設を早急に実現してまいります。

西海岸地域の開発につきましては、西普天間住宅地区との整合を図りながら推進するとともに、仮設避難港の早期開発に向けた取り組みを強力に進めてまいります。

新城区、中原区等、各地区公民館の建設又は改修に取り組むほか、各地域の公園整備を実施します。

市内各地の市道を整備し、地域の活性化及び交通渋滞の緩和に努めます。

市民広場(野球場、駐車場等)の整備を実施し、市民の利便性向上を図ってまいります。

続きまして、「**少子高齢化に立ち向かう福祉のまちづくり**」といたしまして、待機児童ゼロに向けて、認可保育園、小規模保育事業所への支援策に引き続き取り組みます。

保育士の人材確保策として、年休代替保育士の加配費用の補助や

未就学児をもつ保育士の子どもの優先入園を推進するとともに、ICT 機器導入等による保育士の業務負担軽減方策の検討など、保育士の待遇改善や潜在保育士の復職支援等を推進します。

放課後児童クラブの受け皿づくり及び利用者の負担軽減に取り組みます。

ひとり親世帯に対する自立支援の実施、DV 被害女性の支援を継続実施するとともに、母子生活支援施設の整備に向けた取り組みを進めてまいります。

子どもの保育料、給食費、医療費の無償化を目指します。

子どもの居場所づくりにつきましては、子どもの健全な育ちを地域で見守る地域づくりとして、自治会やボランティア団体等の協力を頂き、学習支援や食事の提供等を行う居場所の運営を継続的に実施します。

また、児童が遊びや多様な体験をとおした健康の増進など、児童の健全な育成を図るため、全小学校区に児童センターの建設を推進してまいります。

大謝名児童センターの建替えと、近隣地への福祉関連施設を整備します。

軽度、中等度難聴児への補聴器購入費等助成に引き続き取り組んでまいります。

続きまして、「女性も高齢者も輝くまちづくり」といたしまして、女性の社会進出が実現できる環境を整備します。その拠点施設である男女共同参画支援センター「ふくふく」を活用し、男女共同参画社会の実現に向けて取り組み、DV防止啓蒙普及にも努めてまいります。

ミニデイサービス、シルバーパスポート等の事業を拡充するほか、介護予防教室への無料送迎バス事業の推進を図ります。

シルバー人材センターへの支援を強化します。

続きまして、「教育環境が整い、人材を育むまちづくり」といたしまして、未来を担う子どもたちの健全な成長を支援するため、子どもの成長環境の整備に向けた施策に取り組んでまいります。

市内居住の中学生を対象とした全額補助の短期海外留学派遣事業の拡充を図るとともに、高校生、大学生についても外務省の海外留学制度を積極的に斡旋し、対象者の拡大に取り組めます。

学校施設につきましては、現在全面改築中であります志真志小学校の早期完成を目指すとともに、大謝名小学校体育館などの建替えや、普天間小学校の改築について、その取り組みを進めてまいります。

いじめや不登校などの対策として、SSW(スクールソーシャルワーカー)等の相談支援員を各小中学校へ継続的に配置し、教育環境の充実強化を図るほか、青少年の健全育成の施設として、教育庁舎及び青少年サポートセンターの建設に取り組みます。

市立幼稚園全園で4歳児からの2年保育を継続的に実施します。

学校における情報化の推進を図るため、ICT 機器を整備し、学習環境を充実強化します。

続きまして、「医療、福祉の充実したまちづくり」につきまして、すべての市民が生涯にわたり健康で、安心して住み続けられるまちを目指し、美らがんじゅう体操の普及、特定健診受診率の向上、はごろもウォーキング大会等、各種イベントの開催により、『健康都市ぎのわん』にふさわしい市民の健康増進を図ります。

西普天間住宅地区跡地へ琉球大学医学部、同附属病院を移設し、「沖縄健康医療拠点」形成に強力に取り組み、琉球大学附属病院との連携により、市民の健康増進に寄与するシステムを構築します。

子どもを育てやすい環境整備のため、おたふくかぜの任意予防接種の無料化を引き続き実施します。

続きまして、「働く場を創設し、市民のくらしが豊かなまちづくり」につ

きまして、宜野湾市の地域資源を活かした産業の振興を支援し、個性と活力のあるまちを創出するための施策に取り組んでまいります。

企業誘致等により、若者に働く場を創設し、市内就業人口を倍増させます。

店舗リフォーム補助制度等を創設し、空き店舗対策事業の充実を図り、商店街を活性化してまいります。

民間経済のさらなる推進を図るべく(仮)産業総合支援センターの建設に取り組むほか、高度情報通信機能を備えた、情報通信産業施設の建設を推進します。

大山田いも栽培地域の保全、振興に努めるとともに、「スイーツのまちぎのわん」を宣言し、菓子店、レストラン等で田いもを素材としたスイーツ開発を推進してまいります。

地元企業優先発注による各種公共工事を着実に実施します。

子育てや介護中の方でも仕事がしやすくなるよう、在宅就業の推進など、多様な就労機会の確保を目指してまいります。

続きまして、「**スポーツ・文化を世界に発信するまちづくり**」につきまして、宜野湾海浜公園内の屋内運動場を早期に建替え、幼稚園、保育園等の運動会や各種イベントへの活用を推進します。

横浜 DeNA ベイスターズなどのスポーツキャンプ地としてさらなる活性化を図ります。

トロピカルビーチ賑わい創出事業を推進し、西海岸地域のさらなる発展を目指します。

ビーチサッカー、ビーチバレー等、ビーチスポーツイベントの誘致を推進します。

続きまして、「災害に強い安全なまちづくり」につきまして、常日頃から災害に備えるとともに、市民の生命、身体及び財産を守るための施策に取り組んでまいります。

西普天間住宅地区から国道58号への市道喜友名 23 号を避難道路としての歩道付きで建設します。

宜野湾市地域防災計画に基づき、備蓄食料等の整備拡大や、西海岸地域における津波避難ビル指定件数の増加に努め、市民自主防災組織の育成も支援します。

また、米軍基地内通行を含む防災訓練の継続実施や、防災マップの充実・全戸配布に取り組むほか、視覚、聴覚の不自由な方が災害に対処できる体制を整備してまいります。

続きまして、「行財政改革を推進し市民サービスの向上に努めるまち

づくり」につきまして、市民ニーズに対応した行政サービスを提供するため、健全な行政運営に取り組んでまいります。

指定管理者制度導入施設の拡充や業務委託等、積極的に民間活用を推進し、職員の適正な定員管理に努めます。

昼食時間帯における市役所窓口全業務の開設や、24時間対応のコールセンターの設置により、市民サービスの向上を図ります。

最後に、「環境に配慮した暮らしやすいまちづくり」につきまして、市民が健康で、快適に暮らせるような施策に取り組んでまいります。

市民が安心して暮らせるため、市内の全防犯灯のLED化に引き続き取り組み、ごみの門前収集の完全実施や捨て犬、捨て猫の殺処分ゼロを目指してまいります。

火葬場の建設に取り組んでまいります。

以上、今後4年間の市政運営にあたり、私の基本的な考え方と、取り組む姿勢について所信の一端を申し述べました。

冒頭申し上げましたとおり、私は前市政の継承を訴え、宜野湾市長へ当選をいたしました。引き続き、第四次宜野湾市総合計画基本構想で掲げた将来都市像『人がつながる 未来へつなげる ねたてのまち 宜野湾』の達成に向け、市民一人ひとりが幸せを感じ、宜野湾に住ん

でよかった「宜野湾がいちばん！」だと実感いただけるよう、市職員とともに全力で市政運営に取り組んでまいります。

そのためには、私や職員のための努力だけでなく、市議会議員並びに市民の皆さまのご理解、ご協力を得ることが重要でありますことから、今後とも、議員各位並びに市民の皆さまのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、私の市長就任にあたっての所信表明といたします。

平成 30 年 10 月 4 日

宜野湾市長 松川 正則